

米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会は11月6日(水)に防衛省を訪れ、防衛副大臣へ抗議を含む要請書を提出しました。

熊毛地区1市3町でつくる協議会は、11月6日(水)に防衛省を訪れ、昨年末に誕生した自民党政権に対する初めての要請活動を行い、武田良太防衛副大臣に対して『馬毛島への陸上空母離着陸訓練(FCLP)施設関連予算の執行停止』、『候補地からの除外』などを強く要請しました。

◆訓練というものは絶対に必要(副大臣)

前の民主党政権下で急速に加速し、地元の意思を無視して進められている馬毛島への米軍による陸上空母離着陸訓練(FCLP)施設の移転について、現政権に対して改めて反対の意思を伝え、要請書を提出しました。

対応した武田防衛副大臣は、協議会に対して、「我々の国の周辺の安全保障環境というのは非常に脅威が増しており、新たなる戦略で国土及び国民を守っていくためには、ふだんの**訓練というものは絶対に必要**である。皆様方にも理解をいただき、受け入れられるように誠意を尽くしていく。」と答えました。



武田防衛副大臣に要請を行う協議会(於:防衛副大臣室)

◆陸上空母離着陸訓練(FCLP)施設は種子島・屋久島にはそぐわない!

協議会会長である長野西之表市長は、「馬毛島は種子島・屋久島・指宿・鹿児島・大隅半島の真ん中に位置している。そのような場所になぜ作るのか。**われわれの地域にはそぐわない**。」と強く抗議しました。

また、「将来に向かっての地域づくりを続け、一時的な潤いを求めることはない」と基地による助成等による地域づくりではなく、将来の種子島・屋久島のために「地味ではあるが、一步一步の発展」を目指すことをしっかりと伝えました。

武田防衛副大臣は、「地元の皆さんはどこも反対するが、我が国の防衛のためにはアメリカとの日米同盟が重要であり、国家としてはどこかに理解を求めていかなければならない。現状を理解いただきたい。」と述べましたが、長野西之表市長は、「住民の署名も過半数を超えており、私自身も選挙で市民の民意を得ており、ご理解いただきたい。」と述べ、最後に「**反対は変わることはない**。」と伝えました。